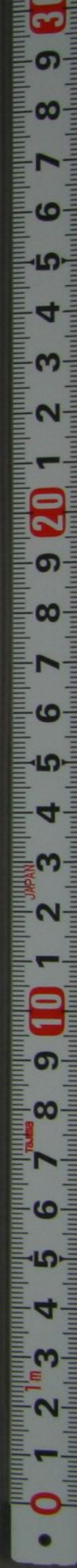


第三十四回

外報摘要

263

2



114
A 796
2

外報摘要第三十四回目次

- 一 英國對清政策ノ失敗
- 一 英米新條約成ラントス
- 一 米國ハ比律賓ヲ如何ニ處セントスル乎

以上

明治三十一年六月二十八日脱稿

天正
限
一
寄
贈



英國對清政策ノ失敗（五月某刊英國雜誌「隔週評論」中
 ガプロマキカスレノ所論摘要）

曾テ北支那ヘラルド論シテ曰ク支那ニ於ケル露國ノ勢威駭々ト
 シテ振暢シ北京朝廷ノ命運日ニ益感足ルモノアリ如カス今ニ於テ帝
 都ヲ陝西ニ移シ豫メ難ヲ避ケンニト、當時予輩ハ之ヲ以テ全ク架空
 ノ極端論ニシテ一顧ノ價値ナシトハセサリシモ、而カモ俄ニ許人ニ此見
 明識ヲ以テセサリキ、誰カ知ラン此輕躁ノ論轉シテ適切ノ警語タラン
 トハ

蓋シ露國ノ旅順口占領以來北京朝廷ノ運命ハ岌々乎トシテ旦夕
 ニ迫リ列國ノ均勢又既ニ破レントスルモノアリ、於茲乎優柔不斷殆

ト為スナカリシ英國モ俄ニ長夜ノ夢醒メタル如ク蹶然起テ威海衛借
用ヲ決行セリ威海衛ノ地タル之ヲ旅順口ニ比セハ其天險要害固ヨリ
同日ノ談ニアラサルモ尚支那ニ於ケル第一ノ要塞タリ而シテ之カ借用ハ
他日露軍ノ陸路北京ニ進ムヲ沮得スルノ功ナシト雖モ慥ニ露國ヲ
シテ直隸灣ニ於ケル專權ヲ妨障シ(二)其獨リ北京政府ニ意ヲ振
フヲ止ム(三)且總理衙門ヲシテ單ニ一國ニ依頼スルヲ断念セシムル(三)
ノ三点ニ於テ成功セシヤ疑ヲ容レス

左レハ英國ノ諛峯措ハ對露策ヨリ將均勢策ヨリ打算シテ近頃効
驗アルノ事タリシモ而モ一般政治家カ之ヲ以テ安意スルニ至リテハ予
輩ハ轉タ長大息セシハアラス況ニ渠等カ遺傳的對清政策ノアル

アルヲ志レ徒ニ歧路ニ彷徨シテ且悟ラサルモノアルニ於テナヤ

惟フニ英國ノ威海衛借用タル古來内閣ニ遺傳セシ政策ノ適
用ニ外ナラサルヘキ乎將亦別種ノ政策タル可キ乎若シ夫レ別種
ノ政策ナリトセハ其得失果ニテ奈何且レ予輩ノ研究セント欲スル
一大疑問ナリトス

予輩ハ此疑問ニ答フルニ先チ須ラク英國ノ遺傳策ナルモノヲ考
査センニ所謂遺傳策トハ支那ノ完全及獨立ヲ維持スルノ義ニシ
テ英國ハ之カ目的ノ達セシニハ專ラ支那ノ文明ヲ啓蒙スルニ如ク
ストシ今八百五十七年以來銳意之ニ熱中シ或ハ交通運輸ノ為
メ支那ノ開放ニ努メ或ハ外侵防禦ノ為メ條約ヲ締結シ以テ之

ヲ貫徹セントセリ、彼南京條約ヲ以テ南部五港ノ開港ヲ約セシ
如キ、將ボツカチギリス條約第四條ヲ以テ舟山及其附近ノ讓
與ヲ豫防セシ如キ、或ハ千八百五十七年露國ノ遼東半島ヲ
要求スルヤエルゲン卿ヲ以テイグナチーフ伯ニ會見セシメ辨難
抗議遂ニ其慾望ヲ杜絶セシ如キ、乃至千八百八十五年庚子
露國カ北部朝鮮ニ侵掠ヲ試ミントスルヤ時ノグラッドストーン
内閣ハ早ク巨文島ヲ占領シ露國ヨリ何等ノ事アルモ朝鮮ヲ
蹂躙食セサルヘシトノ實言ヲ徵セシマテハ之ヲ返附セサリシ等語
來レハ皆是カ方ニ外ナラス、蓋シ英國カ極東諸邦特ニ支那
ノ完全及獨立ヲ期スル所以ノモノハ他ナシ若シ支那ニ於ケル均

勢ニシテ破レシカ其自家ノ頭上利害ノ影響スルモノ頗ル重大ノ
ルモノアルニヨル、故ニ英國既往ノ對清政策ハ炳焉一掃スルノ得可
シ、即支那ノ完全及獨立ヲ經トシ、自家條約上ノ權利及利益
ヲ保護シ、甲他國ヲシテ均執ヲ破ラシメサル(乙)ヲ以テ偉トセ
シ事是レナリ

参照

千八百五十七年クレンドン卿エルゲン卿ニ訓示シテ曰ク
外國貿易ノ為メニ支那ノ全部ヲ開放シ各國民ヲシテ均
一ニ其恩澤ニ浴セシムルニ盡力セヨト
去ル一月サト、シカエル、ヒックスビー、イ、氏演説シテ曰ク

吾人カ支那ニ於テ要スル所ノモノハ領地獲得ニアラス、吾人ハ支那ヲ見ルニ歐州若クハ其他ノ各國カ戰勝或ハ外交手段ニヨリテ豎食ス可キ場所トセス、唯將來最有望ナル我國及世界ノ商業場ヲ以テスルニ外ナラス、而シテ我政府ノ意思ハ既ニ決セリ即政府ハ此目的ヲ遂行スルニアリテ若シ此目的ニ違ヒ開放ヲ妨ケントスル者アラハ必要上兵戈ヲ動カスモ之ニ抵抗セサル可カラス云々

又輓近發行セシ「ブリエーブック」中ニバルフォール氏言ヘルアリ曰ク

我英國ノ對清政策ハ世界商業ノ為メニ支那ヲ開放スル

ニアリ、而シテ我政府カ此政策ヲ施スニ当リ各國ノ行為ヲ秤量スルハ果シテ我目的ニ同情ヲ有スルカ將抵抗スル

カヲ見ルニアリ云々

然ルニ千八百九十五年日清戰爭以來英國ノ對清政策ハ漸ク振ハ斯特ニ昨今ニ至リテ沮喪甚ク、内閣員等ハ口尚政策ノ一貫ヲ唱導シ英國政策ノ振暢ヲ夸張スル依然旧ノ如シト雖モ、實ハ傳來ノ政策ハ一朝ニシテ水泡ニ屬セシナリ、威海衛借用豈其適例ナラストセンヤ

抑威海衛借用策タル四月六日下院ニ於ケルバルフォール氏ノ演說ノ如ク畢竟露國ノ旅順口占領ニ對シ均勢ヲ保ツカ為

メニシテ唯此点ヨリ觀察セハ英國ノ失策ニアラサルカ如シト雖モ、
顧テ從來ノ英政策健在如何ト見ハ惜哉之ヲ以テ全ク打破セ
ラレタリト云ハサル可カラス、何トナレハ獨佛露ノ右領ニ次キ英
ノ威海衛借用ハ支那ノ獨立ヲ保全スル所以ニアラスニテ分割
ノ端ヲ開キタルモノナレハナリ、事茲ニ到リテハ言議能ク清國
獨立策ヲ絶叫スルモ誰レカ再ヒ耳ヲ傾ケン寧ロ嗤ヲ百世ニ
遺スニ過キス、再來果シテ墺伊及白耳義ノ諸國スラモ尚且
此仲間入ヲ為サント努ムルモノ、如シ、

冬照

墺國ハ本年三月十一日斐克^ノイエフライプロッス^ヲ以

テ其意思ヲ言明シ、伊太利ノ慾望ハ四月十六日ノ「タイ
ムス」ニヨリ明瞭トナリ、白耳義又同紙ニヨリテ其ハ「コ
||」ニ意アルコト明白ナルニ至レリ

英國カ旧來ノ政策ヲ放棄シ分割策ニ與リシハ必要上止ムヲ
得サルニ出テタリトセハ多少怒スヘキモノナキニ非スト雖モ、
彼内閣員等カ言ヲ左右ニシ縱令獨露ノシテ右領セシムル
モ我開放政策則利益平分策ハ終始維持セラレヘシト漫言スル
ニ至リテハ予輩ノ痛クニ忍ヒサル所ナリ

露國ノ旅順大連灣ニ關スル通牒ニ曰ク

大連灣ハ支那條約港トシテ既往ノ如ク各國船舶出入ノ自

由ヲ有ス可キモ、旅順ハ商業港ニ適セサルヲ以テ然ラスト
又膠州灣ニ對スルビエーロノ自白ニ曰ク

予ハ現在ニ於テ膠州灣ニ對スル我商業政策ニ付キ未來ノ
態度ヲ言明スルノ義務ナシ、若シ夫レ強テ之ヲ尋ネハ便
宜任意ノ举措ニ出テント意ヘニノシタマ

知ル可シ英國ハ旅順ニ於テ既ニ等分權ヲ剝奪セラレ僅ニ大連
膠州二灣ニ之ヲ維持スルニ過キサルヲ、而モ是尚獨露ノ利益ト觸
突セサル間ニアツテノ事ノミ、若シ一朝ニシテ彼我ノ利益相抵觸ス
ルアラシカ何レノ時大連ノ閉鎖起ルヤ又知ル可カラス、矧ニ膠州
灣ノ如キ主權 (Sovereign Right) ヲ奪テ彼ニ移セシモノ、如キニ於

テフヤ

由來英國ノ支那獨立策ニ於ケル目的ハ英國商業ノ為メニ費用
及責任ノ最小低度ヲ以テ最大執力ヲ占ムルニアリシニ、失策ノ結
果ハ偶貿易範圍ヲ縮少シ却テ責任ノ大ヲ負フニ至リス、則大
ナル資金ト労力トヲ要スルニ非ンハ旅順ニ對シテ均勢ヲ保ツ能ハ
サルハ勿論其維持スラ覺束ナキ威海衛ヲ借用セシ如キ是レ
ナリ、顧フニ英國政治家ニシテ思慮先見ニ富ミ外侮ヲ甘受ス
ルノ陋習ヲ洗滌シ剛強以テ列強間ニ立タハ庶幾クハ今日ノ事ナ
ケン
蓋シ露國カ太平洋ニ通路ヲ熱望スルト共ニ終ニ旅順ニ據ルノ

意アリシハ事實ナリト雖モ、彼ハ尚暫ラクハ之ヲ得ント熱注セサリシナラン、西比利亞鉄道ハ彼ヲシテ其全カヲ注カシメ敢テ他ニ新ナル紛争及心痛ヲ惹起セシムルノ餘地ヲ與ヘサリケレハナリ、左レハ獨逸ノ膠州灣ヲ占領スルヤ、彼ハ自家ノ勢力ヲ侵蝕セラル、ニ驚愕セシモ英國ノ意向ヲ窺ヒ僅ニ之カ防禦法ヲ講スルニ過キサリキ

故ニ英國ニシテ決スル所アリ勇往邁進セハ獨逸ヲシテ膠州灣ヲ放棄セシムルハ容易ナリシナラン、則渠等カ曾テトランスバルニ於テ吾人ニ抗議セシ如ク我又支那ニ於ケル利害ノ關係ヨリ支那帝國ノ品位ヲ説キ以テ獨逸ニ莅マハ大義名分ノ向フ所彼恐ラ

クハ抵抗セス其殺害事件ノ賠償ヲ得ルニ於テ膠州灣ヲ放棄シ且事ノ落着ヲ見シナラン、斯クシテ分割ハ嫩莽中ニ枯涸シ露人モ亦浦塩斯德ニ退隱セシナランカ

而モ英國政治家ハ举措此ニ出テサリシノミナラス、獨逸ニ對シテハ虚飾的仁惠ヲ施シ露國ニ對シテハ更ニ要ナキ疑懼心ヲ懷カシメ、遂ニ事件ヲ増大セシメ畢ンヌ

嗚呼斯クノ如クニシテ英國旧來ノ對清政策ハ破碎セラレ不幸ナル新政策之ニ代レリ、英政府ハ何人ヲモ恨ムニ及ハス唯自己ヲ恨ムノ外ナシ支那ヨリ高價ナル讓與則内地河川ノ公廂權等ヲ得シハ饒令ハ我貿易ノ進歩ニ裨補アラント雖モ、是等ハ素ヨリ分割策ト

而立し得可キニアラス、英國政治家カ本末幹枝ヲ顛倒シ猥リニ
風潮ニ奔リテ自ラ難境ニ沈溺セシヨソ異々モ予輩ノ遺憾トスル
所ナレタ

英米新條約成ラントス（五月廿二日「ヘラルド」所報）

輓近英米兩國ノ互ニ密着ヲ図リツ、アルハ争フ可カラサルノ事
實ナリ其結果乎、久シク加奈多米國間ニ纏綿シツ、アリシ諸向
題モ今ヤ將ニ成ラントスル新條約ヲ以テ全ク溶解セントスルニ至レ
リ
米國政府ノ当局者、駐米英國公使サト、ジエリアン、パンセフォート
及加奈多海軍卿サト、ルイス、ダビースノ三氏ハ該條約締結ノ第
一着手トシテ次週ヲ以テ先ツ懷議會ヲ開キ、然ル後各政府ハ其
委員ヲ任命シ速ニ事ノ決定ヲ期スルモノ、如シ
所謂新條約ヲ以テ決定ス可キ事項ハ即

一、大河湖ニ於ケル漁獵保護問題

二、北太平洋漁業問題

三、加奈多及米國ニ於ケル外人労働法問題

四、移民問題

五、クロナイク其他ニ於ケル鑛業法問題

六、白令海獵問題

等ニシテ皆重要且積年ノ宿題タラサルハナク而モ從來談判悵議ヲ重ヌル數回ニ亘リシモ、何時モ互ニ衝突シテ決定ヲ見ルナカリシ、這回ハ漸ク落着ク見ルモノ、如ク、社會公衆モ当今兩國ノ形勢ヨリ之ヲ確判スルモノ、如シ

昨廿一日ヲ以テ英公使パンセフォート氏ノ國務卿ト會見セシ如キ蓋シ悵議會ノ準備ニ關シテナランヌ々

米國ハ比律賓群島ヲ如何ニ處セントスル乎（五月六日「ハ
ラルト」社説）

米國ノ國旗ハ未タマニラノ天地ニ翩翻タラスト雖モ戰勝ノ結果ト
シテ比律賓群島ノ我有ニ歸スルハ蓋シ当然ノ事ナリ

果シテ尤ラハ我米國ハ如何ニ之ヲ處ス可キ乎、是レ將ニ來ル可キ平
和條約決定ト共ニ解決セラル可キ一大疑問ナリトス

而モ此疑問ニ先チ二個ノ問題アルヲ志ル可カラス、即ハ合衆國カ之
ヲ占取スルト假定シ殖民地トシテ之ヲ維持シ若クハ其他ノ方法ニ
依リ之ヲ處分スルハ果シテ其正當ノ權利ナル可キカ否ヤニテ、曾
テ獨逸ハ此權利ヲアルサス、ローレーンニ適用セシモ其後日本カ支

那ニ對シ又土耳其カセツサリニ對スル場合ニ於テ歐洲列強ハ之ヲ非認シテ勢力 (Might) ノ適用トセリ、ニハ即利害ノ關係アル歐洲列強力干涉スルト否トハ未タ知ルヘカラスト雖モ若シ干涉スルトセハ其時機如何及合衆國ノ之ニ對スル成算奈何ノ問題是レナリ

今此第二ノ問題ニ對スル答弁ハ暫ラク措キ、前問即米國ハ比律賓ヲ奈何ニ處ス可キ乎ニ就キ考覈スルニ概ネ四策アルモノ、如シ

第一、合衆國ハ戰爭ノ結果西班牙ヨリ受ク可キ償金担保トシテ之ヲ維持シ其支拂ト同時ニ還附スル

第二、西班牙財政ノ状態ヨリ必要上其全部若クハ一部ヲ占領シ財政

及殖民的形勢ヲ見然ル後其處理ヲ他國ニ圖ル

第三、玟馬ノ請求ニ從ヒ獨立ヲ諷島人民ニ許ス

第四、唯殖民地トシテ之ヲ維持シ及統治スル

右四策中人口ニ膾炙スルモノハ最後ノ策ニシテ特ニ進取論者ノ喋々スル所ナリ、渠等ハ曰ク

我將來ニ於ケル國民的命運ハ極東ニアリ故ニ吾人ニシテ時勢ト共ニ并行シ世界國民ノ前面ニ立タンニハ歐洲列強ト等シク東洋ニ立脚地ヲ保チ常ニ其方面ニ於ケル事件ニ發言權ヲ有セサル可カラス、是レ我國是ノ強ユル所ナリ、比律賓ノ軍略上及貿易上ノ利益ハ實ニ重大ニシテ且實質的ナルハ何人モ爭ハ

サル所、我之ヲ領有シ更ニ布哇ヲ合併シ且親善相持シ有
キ通スル玳馬ヲ援カハ我合衆國ハ始メテ國民的進歩ノ新
紀原ヲ開クモノニシテ又之レ我國是ノ往ラシムル所以ナリト

之ニ對シ比律賓併吞ヲ難スル者ハ所謂退守論者ニシテ渠等ハ云

ク

我制度内ニ地震ノ害狂風ノ災及支那人西班牙人雜種人乃
至ハ半開種屬ノ樂天地タル亞細亞的群島ヲ入レシトスルハ
寧ル其至愚ヲ憐マスニハアラス、試ニ思ヘ我海岸ヲ距ル
ル處六千哩ノ地ヲ領有スルモ亦之ヲ奈何スヘキ唯之ヲ維持
スルノミニテモ過多ノ陸海軍ヲ常備セサル可カラズ、徒ニ

11

益ノ國帑ヲ浪費シ剩ヘ外國ノ嫌惡ヲ招キ尚之ヲ領有スル
ノ必要ハ夫レ何處ニアルヘキカ、况ニヤ我國是ハ由來外國トノ
接衝ヲ避クルニアルニ於テヤ、左レハ我合衆國ノ力ニ圖ル
ニ我ハ此半球ニ依居シ他半球ノ事件ハ細大舉テ之ヲ歐洲
及亞細亞ニ委ムルニアリ云々

知ラス我当局者ハ何レニ處セントスルモノゾ云々

